

香川県広域水道企業団 水道事業 地区別意見交換会 議事録

西讃ブロック統括センター

開催日時	令和7年12月24日(水) 10:00~10:42
開催場所	観音寺市役所 201・202 会議室
出席者	委員6名 企業団職員8名
傍聴者	なし
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 令和6年度決算状況報告について</p> <p>(2) 料金統一について</p> <p>(3) その他</p> <p>3 閉会</p>

要 旨

<p>委員 企業団</p> <p>委員</p> <p>委員 企業団</p> <p>委員</p>	<p>1 開会 所長が挨拶を行う。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 決算状況報告について 企業団より説明を行う。</p> <p>(2) 料金統一について 企業団より説明を行う。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道管の更新計画について 「老朽化した水道管の更新計画はどのようになっているか。」 「今後の更新については布設年や管路の重要度、布設された道路が幹線道路であれば周辺の交通規制等を考慮しながら順次更新していく。」 「老朽化した水道管を順次更新していくとなるとやはり予算が必要になり、それが水道料金の値上げに繋がることは理解できる。ライフラインである水道については今後もきちんと維持管理をしてほしい。」 「現在更新を進めている水道管について、更新時に耐震化も行っているのか。」 「更新する管については耐震管にすべて布設替えしている。」 ・昭和50年に砂地に埋設施工した塩化ビニール管の耐用年数等について 「昭和50年に埋設施工した塩化ビニール管の耐用年数と管端末の接着、
---	--

企業団	<p>支管の継手の接着用材の耐用年数について教えてほしい。特に海岸で砂地に布設されている管については荷重耐圧が低下し、塩害を受けやすくなっているのではないか。」</p>
企業団	<p>「昭和 50 年に埋設した塩化ビニール管について、企業団の基準では管そのものの耐用年数は 40 年としている。管の末端部の接着部分や、支管部の継手に使われている接着材については明確に何年と定めた基準は無いものの、一般的には 50 年以上の耐久性があるとされている。適切な材料を使い、正しく施工されている場合には、本体より先に接着部分が劣化することは考えにくい。」</p>
委員	<p>「埋設管が平行に布設されていればよいが、配管が交差している部分は管にかかる負荷が大きくなるのではないか。また、接着部分についてもきちんと施工されていない疑いのある個所があり、当時どのような施工を行ったのかを知りたい。」</p>
企業団	<p>「昭和 50 年頃の施工状況については資料や写真がないので、当時どのような施工をしていたかは分からない。配管交差部分については過重がどうしてもかかる。基本的には深さ約 80 センチで埋設されているものと思われるが、確認できない。」</p>
委員	<p>「砂地の配管については管の下に海水が流れることで砂が無くなる可能性もある。さらに、地震が発生した際には液状化する可能性もあるため、できれば半島部分や砂地部分の配管の更新を早期に行うようにしてほしい。」</p>
企業団	<p>「企業団としては優先順位をつけながらの対応となる。どうかご理解いただきたい。」</p>
委員	<p>・老朽管の現状と対策について</p> <p>「香川県は全国を上回るペースで水道管の老朽化が進んでおり、大阪に次ぐワースト 2 位とのこと。耐震化に伴う耐震管への更新と同時に、老朽管の交換も急がねばならない。進捗状況はどのようになっているのか。」</p>
企業団	<p>「企業団において、香川県広域水道企業団上下水道耐震化計画を策定したところであり、本計画では、県内の重要給水施設 356 施設のうち、災害拠点病院や防災拠点に指定されている 77 施設に接続する水道管路について、特に優先的に耐震化を完了させることを目標としている。県内では全国平均を上回るペースで水道管の老朽化が進行しており、耐震化の推進と併せて、老朽管の更新を計画的に進めていくことが大きな課題となっている。</p> <p>次に、管路の耐震化の状況について、三豊市では、令和 5 年度末時点の管路全体の耐震化率は 10.1%で、前年度から 0.6%上昇している。令和 6 年度には、配水管の更新工事を 13 件、延長約 4.1km を実施しており、老朽管の更新と耐震化を同時に進めている。また、水道施設においては、浄水場 0%、配水池 74.48%と前年度と大きな変化は無いが、ポンプなどの機器類を優先</p>

委員	<p>して更新しており、令和6年度は30件の機器更新を実施している。観音寺市では、令和5年度末時点の管路全体の耐震化率は12.6%で、前年度から1.0%上昇しており、令和6年度には、配水管の更新工事を12件、延長3.1kmを実施している。水道施設の耐震化率は、浄水場82.03%、配水池9.43%で前年度と同水準だが、一部の配水池については現在、耐震診断を実施している。」</p> <p>「費用とのバランスも考慮しなければならないのだろうが、全国的に水道関係の事故が多発しているため、決して他人事ではないと思われる。今後も緊張感を持って取り組んでほしい。」</p>
委員 企業団	<p>・PFASをはじめとする水質検査状況について</p> <p>「今年もPFASは検出されているのか、検出されているのであれば量を教えてほしい。また、原因の特定はできているのか。」</p> <p>「PFASについて、昨年7月に検出されて以来、茂木浄水場では毎週水質検査を実施している。最新では、12月15日に実施した浄水場から送水した水道水の検査結果において、PFASは1リットル当たり12ng/Lの数値となっており、50ng/Lより少ない安全な数値であることが確認できている。一方、取水を停止している茂木第2水源についても、同様に毎週検査を行っている。数値に変動はあるものの、現在も暫定目標値を超える値が検出されている。また、企業団では茂木浄水場に限らず、財田川流域の財田町・山本町・豊中町にある浄水場や水源についても水質管理を強化している。香川県においても、財田川の4地点で定期的に水質検査が実施されている。県が実施した財田町の水質検査の数値としては、基準より大きな数値は観測されていない。PFAS発生の原因特定については、現在まで特定できておらず、香川県からも汚染源の特定は非常に難しい状況にあると説明を受けている。」</p>
委員	<p>「いつまで対応が必要か不明とのことなので、今後も検査と監視を続けてほしい。」</p>
<p>3 閉会</p>	